

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100177
法人名	株式会社 ライフサポート NEO
事業所名	神埼紀水苑
所在地	佐賀県神埼市神埼町鶴1342番地1 (電話) 0952-53-8905

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	2009年6月11日

【情報提供票より】(平成21年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	3人, 非常勤 10人, 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1		名	要介護2	4	名	
要介護3	2	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	歳	最低	76歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋本病院(内科・外科・整形他)・中尾医院(外科・整形)・鮫島病院・塚本歯科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の静かな環境の中、同一敷地内に宅老所も隣接するホームは、駐車場や玄関先に季節の樹木や花が植えられ、周りの景色にとけこみほっとする雰囲気をもっている。一人ひとりを尊重し、自由な暮らしを提供したいとの管理者の想いを職員が一丸となり実践している。日々の暮らしの中で、管理者が自らケアを実践しながら、職員の育成に力を注いでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となっていた環境面への配慮を中心に改善を行い、成果が得られている。これからもサービスの質の向上を目指し、月1回の会議で、全職員で検討する計画がある。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員の意見を聞きながら取り組んだ。今後は入居者に対する言葉掛けや関わり方など、コミュニケーション技術の向上を目指した取り組みをしていきたいと考えており、効果が期待される。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、評価についての説明や、地区の行事への参加、緊急時の協力依頼等についての検討がなされている。会議への出席のお願いをその都度しているが、地域からの出席者が少ないのが課題となっている。ホームを理解していただき、地域との交流を深めるためにも会議が効果的に行われることを期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に苦情や要望についての意見を促したり、意見箱を設置している。家族からの意見があれば、迅速な対応をして、運営に反映させている。これまで居室の環境への配慮についての要望があり、改善している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	溝掃除やごみ収集所の掃除当番をするなど、地域にとけこもうとする姿勢が感じられ、公民館でのしめ縄作りや学校の運動会等の行事に参加することで入居者も喜ばれている。回覧板により地域の行事を把握し参加が出来る。これから老人会への参加が計画されており、益々交流が深まることが期待される。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく、笑顔で生きがいを持って、自分らしくその人らしく地域で生活できるよう支援します」と、地域との交流も視野に入れた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議時には、理念に添うケアが出来るように検討をしたり、理念を基にして具体的な支援についての年間計画を作成し、日々の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板により地区の行事を把握している。溝掃除やごみ収集場の掃除当番をしたり、公民館でのしめ縄づくりや小学校の運動会へも参加することで、入居者の喜びにもつながっている。今後は老人会への参加も計画中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの評価で課題となっていた環境面での改善を行っている。今回の自己評価についても、職員の意見を聞きながら取り組み、更なるケアの質の向上を目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、評価についての説明や、地区の行事への参加や災害時の協力依頼などの意見交換をしている。地区の代表者へ、会議への参加依頼をしているが、地域からの出席が少ないのが課題と考えている。	○	ホームから地区の代表者へ出席のお願いをしており、地域の理解と支援を得るための貴重な機会として運営推進会議の一層の充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回、「ケアネット神埼」という市町が主体となり開催される研修会に参加しており、相談等できる機会となっている。他にも生活保護の方の受け入れや、見学受け入れなど市町村との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求書の送付時や面会時には家族へ近況報告をしている。写真を同封したり、苑便りを送付している。又、些細なことでも、電話で報告を行ったり、体調の変化時も報告を行うなど信頼関係の構築に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に苦情や要望についての意見を促したり、意見箱を設置し、その都度説明をしている。意見があれば、迅速な対応や改善をし、運営に反映させている。これまでも居室の環境への配慮についての意見を受け改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで管理者や職員がやむを得ず交代する事態がみられたが、現在は職員の異動がないように配慮している。代わる場合は、家族や利用者へ充分説明し不安や不満がないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所で、人材育成に関する計画書を作成し、外部研修も積極的に参加するように促している。ケアネット神埼や母体組織での研修会の他、ホームでも月1回勉強会を計画し、人材育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネット神埼での情報交換や、他のホームや宅老所での交換研修により交流する取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が会いに行ったり、試みの利用として食事のみの利用や短時間利用の他、家族と泊まっていたく等希望に添いながら、入居時の不安を軽減するように努めている。環境が変わることによる不安を職員が理解し、入居者に応じた対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念である「その人らしさ」を支援するために、介護するばかりでなく、入居者の能力を把握し、日常生活やケアに生かすように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他、本人や家族からの聞き取りを行ったり、日常生活の中で知り得た思いなど記録することで、職員が共有しながらケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に意見を伺い、本人の意向や職員間で話し合った内容などを反映した介護計画を作成している。毎月の会議で入居者毎の担当者が中心となり、検討会議を進めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的にモニタリングや評価を行い、3ヶ月毎の状態の変化に応じて見直しをしている。経過が分かるように計画の項目毎に実践記録がなされ、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や希望に応じて、受診の付き添いや自宅への送迎をして、個々の満足を得るように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医、または希望があればホームの協力医療機関より適切な医療が受けられるようにしている。情報の提供など連携に努め、訪問診療や緊急時の体制もとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合に関する指針を作成し、契約時に説明し、同意を得ている。これまでに看取りの事例はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る際はノックをしたり、言葉掛けに関しても入居者の尊厳を守ることを重視したケアを行っている。管理者が日々のケアを通じて、必要に応じて職員への指導もしている。個人情報についても管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、起床や食事時間の制限をせず、状況にあわせた対応をしている。入居者の自由を優先し、外出等においても見守りを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や季節の食材を取り入れた献立を作成し、買い物や準備などできることを手伝ってもらっている。職員も同じ食事をゆっくりと会話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきに午前と午後に、希望を聞きながら入浴している。希望があれば毎日でも入浴でき、拒否される方については同性介助をする等工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに得意なことや楽しみにされている役割がある。食事の挨拶など小さなことでも気晴らしやイキイキとした時間を持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩の支援の他、ドライブや外食、買い物など、入居者の希望に応じて計画を立てている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。日中に出掛けられる場合は、職員がその都度、見守りや付き添いをしており制限はしていない。近所の方の協力も頂きながら、警察や市役所への相談、連携に努めている		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、火災や災害時の協力依頼をしたり、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。近隣へも協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は同系列の栄養士の指導をうけて、バランスを考えた食事の提供に配慮している。食事や水分の量については、チェック表により把握されている。自由にお茶を飲めるように急須を準備し、入居者へも促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは明るく、家具なども家庭的である。ソファに腰掛けると、窓からの景色が見渡せ四季の移り変わりも感じられる。食事の準備をしながら、入居者との会話がはずみ、味見をしてもらったりと、生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたものを持参していただくように説明をしている。居室はベットや布団など、入居者の希望により利用でき、掃除が行き届き清潔感がある。家具は箆箆や衣類整理用の引き出しなど自宅より持参され、思い出の写真や手作りの作品が飾られている。		